

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月29日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102014
法人名	医療法人社団 青冥会
事業所名	認知症高齢者グループホーム第三若葉荘
所在地	香川県高松市上林町822番地1 (電話)087-815-5010

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年5月18日	訪問調査日	平成21年6月29日

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年10月25日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	9人, 非常勤 8人, 常勤換算 14.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建て
------	--------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,650円	その他の経費(月額)	7,320円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,400円		

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	1名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.4歳	最低	57歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団青冥会 ミタニ藤田病院 きくしま歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの玄関を入ると左右に①・②のユニットがあり自由に行き来できる。屋内の天井は高く明るく広いホールに季節のお花や手作り作品が飾られている。テーブルの配置、くつろげる畳間、テーブルやソファに掛けられた懐かしい着物や帯の手作りカバーは落ち着いた家庭的雰囲気があり心を和ませてくれる。理念に基づき、職員は明るく笑顔でいきいきと利用者一人ひとりに寄り添うケアを実践している。利用者の表情も明るく穏やかに暮らしている。立地条件から地域との交流が難しい中、管理者を中心にホームの行事に参加を呼びかけるなど涙ぐましい努力の成果がうかがえる。今は、地域の方にお礼の手作りおはぎを持っていくなど交流の広がりができている。今後、さらに地域に溶け込む交流が深まっていくことを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題として、理念、市町村との連携、職員の異動・育成、安心と信頼の関係作り、安心と安全を支える支援などが挙げられていた。全職員が職員会議で検討しできるところから改善に向け取り組んでいる。今回、全職員で地域の中での暮らしを意識した理念をつくりあげている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者を中心に自己評価をおこなっている。職員は評価の意義を理解し、日々の実践の振り返りになると前向きに捉えている。今後も自己評価は全職員で取り組み、サービスの向上に活かせることを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2カ月に1回運営推進会議を開催している。構成メンバーの市担当者、地域包括支援センター、地域住民代表、家族代表、利用者が参加している。ホームの活動報告をし、参加者から意見を聞いている。意見は職員に周知話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 2カ月に1回担当者が書いた手紙と出納帳を家族に送付している。状況に応じて面会時や電話で家族に連絡をとり速やかに対応している。家族会に加え、運営推進会議にも参加できるようにしている。玄関に意見箱を設置しているが、意見・要望は直接職員に話されることが多い。家族の意見記録ノートを作り、職員間で話し合い共有し対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民との交流は難しい立地条件であるが、地域住民との挨拶を心がけ、ホームの行事へのお誘いなど管理者を中心に努力の成果がうかがえる。引き続き努力を期待したい。地域住民宅訪問の際、ホーム手作りのおはぎを持参するなど、交流が深まってきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、開所時の理念「一人一人の個性を伸ばし明るく笑顔の絶えない日常生活を援助する」と、外部評価を受け「入居者も地域住民の一員である事を認識して頂けるよう日々業務の中で交流を深め地域に根ざしたホットステーションを目指す」の2つの理念を掲げている。理念は全職員のアンケートを基に話し合いづくりあげている。	○	法人の理念、ホーム独自の理念と3つの理念を掲げている。地域密着型サービスを基に、ホーム独自の理念を地域に発信し日々の実践に活かせる取り組みを期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はよく見える玄関、事務所に掲示している。職員は、理念を念頭に常に明るく笑顔で日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民との交流は難しい立地条件であるが、地域住民との挨拶を心がけ、ホームの行事へのお誘いなど管理者を中心に努力の成果がうかがえる。引き続き努力を期待したい。地域住民宅訪問の際、ホーム手作りのおはぎを持参するなど、交流が深まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を職員会議で検討し、改善できることから取り組んでいる。理念を全職員の意見を基につくりあげている。職員は、自己評価を日々の実践を振り返るよい機会と前向きに捉えている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、構成メンバーの市担当者、地域包括支援センター、地域住民代表、家族代表、利用者が参加している。ホームの活動状況を報告している。メンバーからの意見を職員間に周知し、話し合いサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者は、運営推進会議に参加しており、運営に関する意見をもらうなど連携は取れている。相談等の交流でサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2カ月に1回担当者が書いた手紙と出納帳を家族に送付している。状況に応じて面会時や電話で家族に連絡をとり速やかに対応している。職員異動については、面会時に口頭で報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に参加、また、家族会を定期的に開催している。玄関に意見箱を設置しているが、意見・要望は直接職員に話されることが多い。家族の意見記録ノートを作り、職員間で話し合い共有し対応している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内に施設や数多くのホームがあり異動はかなり多い。管理者は利用者、家族へのダメージを最小限に抑えられるよう取り組んでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で年間研修計画を立て、ホームからは交代で参加している。研修後、ホーム内で伝達している。法人外の研修には参加できていない。資格取得には積極的であり、今年も介護福祉士に2名が合格している。採用者には業務マニュアルを基に全職員が指導にあたっている。</p>	○	<p>法人内の研修計画を掲示、また、ホーム独自の年間研修計画をたてサービスの質の向上につながる事を期待したい。外部研修は、段階に応じて参加計画され職員のスキルアップにつながる取り組みを期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内のホームとは交流の機会が多く連携は十分に図れている。他同業者との交流の機会はほとんどない。個々の交流にとどまり相互関係には至っていない。</p>	○	<p>近隣の同業者、また、外部研修会等で他事業所職員との意見交換を踏まえ、サービスの質を向上させていく取り組みを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	早急な入居が多く、管理者が家族から話を聴いて利用者が納得し安心して利用できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬い、利用者の昔話や一緒に歌を歌うなどより添い支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や、しぐさ・表情から思いや意向を把握し希望に添えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を聴いて、カンファレンスや担当者会議を行い介護計画を作成している。実践できる計画を2項目挙げ、サービス内容も具体的でわかりやすくしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3カ月ごとに見直しをしている。利用者の状態変化等必要に応じてその都度見直し、現状に合わせた計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望病院への受診等、利用者の要望に沿えるよう柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、または希望の病院への受診を支援している。希望病院の通院は家族に依頼しているが、状況により職員が介助している。受診時は受診ノートに記録し、家族と職員に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針はあるが、活用までには至っていない。具現化しておらず利用者の状態に合わせてその都度医師、家族と話し合い対応している。	○	できるだけ早い時期から、重度化や終末期に向けホームの対応できる段階等、関係者で話し合い対応指針を作成し職員間で共有できる取り組みが望まれる。また、家族にホームの対応指針の説明や同意書等についての取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は見られない。個人情報の取り扱いにも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の栄養士が献立と食材を、ホーム一括で準備されている。ホームの行事や菜園収穫の食材により一部メニューを変更するなど趣向を取り入れている。利用者は食事の準備や後片付けを楽しそうに一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は、3グループに分けて支援をしている。誘導を嫌がる利用者への声かけを大事に対応している。	○	利用者の希望あれば、夜間も入浴できるような取り組みを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たみ、生け花、農作業、草引き、食事のメニュー書き、カラオケなど利用者の力量に合わせた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、外気浴やホーム周辺の散歩また、買物やうどん屋に出かけ地域の方と交流が深まる努力をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵をかけておらず自由に入出りできるようになっている。職員数が少なく落ち着きのない利用者がある時にはやむえず鍵をかけることもある。玄関の出入りはチャイムで把握できる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を行っている。1回は地元の消防署に来てもらい利用者も参加しての訓練を実施している。避難マニュアルを作成し夜間想定訓練を行っているが、地域の協力体制を得るまでには至っていない。	○	定期的に消防署の協力を得て訓練を行っている。運営推進会議等を通して災害時の協力依頼を地域の自治会等へ働きかけ協力体制が築けることを期待したい。特に、職員数の少ない夜間、利用者を災害から守る体制作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が献立作成をしている。ホームにも栄養士がおり、利用者の状況に合わせた調理の工夫をしている。食事は個人記録に書いて職員間で共有し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に飾られた季節のお花や手作り作品、ホールは天井が高く明るく広い、テーブルの配置にも落ち着いた家庭的雰囲気があり心を和ませてくれる。くつろげる畳間やテーブルやソファに懐かしい着物や帯の手作りカバーを掛け居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れたものやテレビを持ち込まれている。また、思い出の写真や手作り作品を飾り居心地よく過ごせるよう支援している。		